

the OBI

本を選ぶとき、まず一番先に目が行くのが本の帯。

しかし図書館に本を並べる際には、
本に付いていた帯はすべて外してしまいます。

でも！

外すにはモツタイナイくらい、
様々な趣向を凝らした
面白い帯が実はたくさんあるんです。

今回の**主役**は、そんな図書館ではあまり目にすることのない、本の**帯**。

果たして、**魅力的な帯**から**魅力的な本**を見つけることはできるのでしょうか？



少しでも多くの人に手に取ってもらえるようにと、本の帯には様々な宣伝文句が書かれています。「帯に書かれていた文章を決め手に購入した」なんて人も少なくないのでは??

その帯の作り手である東京創元社の編集者によると「帯の作り方は下記の4タイプに分類できる」そうです。それではさっそくご紹介します。

・剛速球型

「9か国で累計80万部突破!」「映画化決定!」「年末ベスト第1位!」「売れすぎて申し訳ないっす!」とか書いてあるやつです。



・説明型

芸がない方法と思われるかも知れないが、ミステリ、SF、ファンタジー等では案外有効な場面が多い。「英国現代本格」「ロマンティック・ファンタジー」「超本格ハードSF」などと書いてあれば、どんな話か一目瞭然なので、ジャンル読者に対しては親切設計。

「CWA新人賞受賞の気鋭が放つ〜」「ブッカー賞作家が描く〜」「ヒューゴー賞、ネビュラ賞、ジョン・W・キャンベル記念賞3賞に輝く〜」など、賞の権威を用いる方法も、この系統といえるでしょうか。

・雰囲気型

作中の文および台詞の引用、詩的な表現などを用いて作品の読みどころを伝える。これが一番編集者にとっては腕の見せ所です。下手に書くと大滑りするが、半笑いでお客さんが通り過ぎることになる反面、もっとも心に訴えかける力が強いのもこのタイプ。一般文芸や恋愛小説は基本的に「語り」がないとカバーの間が持たないので、編集者のセンスがより厳しく問われる。

・推薦文型

ペーパーバックにはよく新聞や評論家の書評がついていたりするが、日本では読書家のタレントや作家さんから推薦文を寄せてもらい、帯やPOPにして仕掛け販売するケースが最近目立っている。

書店員さん推薦も多くみられるようになりましたね。作品がテレビドラマ化、映画化された際にスチールを借りて、帯にあしらうことも。特に、既刊本をまた動かすときに威力を発揮する。

※東京創元社発のひとりごと 第四回（執筆者・東京創元社編集部F）
(<http://d.hatena.ne.jp/honyakumystery/20100305/1267749779>) より引用

いかがでしたか？
こうした作り手の意図を考えつつ帯を読んでみると
また違った面白さに出会えますよね！





展示本の紹介



今回の〈図書館：企画展示コーナー〉では、**帯をメインに展示**しています。

帯とその帯が巻かれていた**図書**には、**同じ番号が付けられて企画展示コーナーに並んでいますので、面白いと思った帯の本**をぜひ手に取って読んでみてくださいね！



帯番号：25

昔話や古典文学に描かれた「老人像」を追い、「昔の老人の知られざる生態」に迫るユニークな本！

帯番号：40

彼女は計算して奇跡を起こす——。東野圭吾が小説の常識をくつがえして挑んだ、空想科学ミステリ。



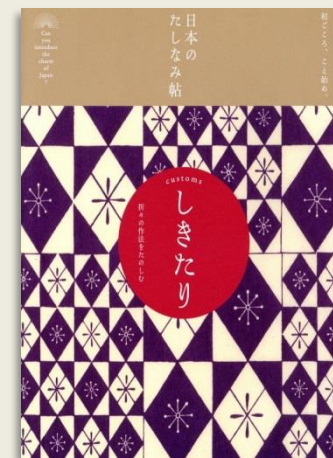
帯番号：1



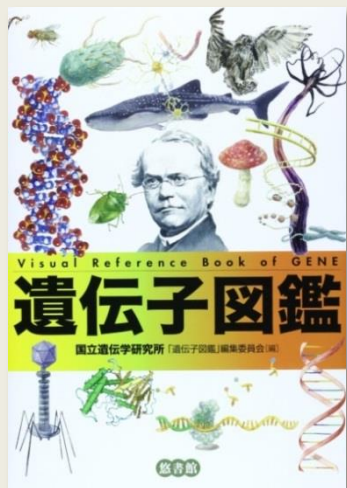
バリバリ文系大学を卒業した作者。簡単なwebページくらいなら作れるし、オタクな自分にピッタリな仕事って…SE!?! そんな軽い気持ちから入社を決めたIT業界は、聞きしに勝る戦場だった!?

帯番号：24

日本のふだんの暮らしをふりかえてみると、そこには伝統的なしきたりや習わしが脈々と息づいています。年中行事、衣食住と人づき合い、人生儀礼と冠婚葬祭におけるしきたり・習わしを紹介。



帯番号：30



すべての生物の構造・働きをつかさどる遺伝子の、仕組みから実用化の現場まで、遺伝子にかかわるあらゆる分野を鮮やかなビジュアル群とともに一冊に収録。

他にも多数展示中です

図書館企画展示コーナー
でお待ちしています♪